

万博公園春の渡り鳥調査結果 (2008年度)

調査期間 08年4月15日～5月5日

調査目的・方法など 昨年までと同一

製作：吹田野鳥の会

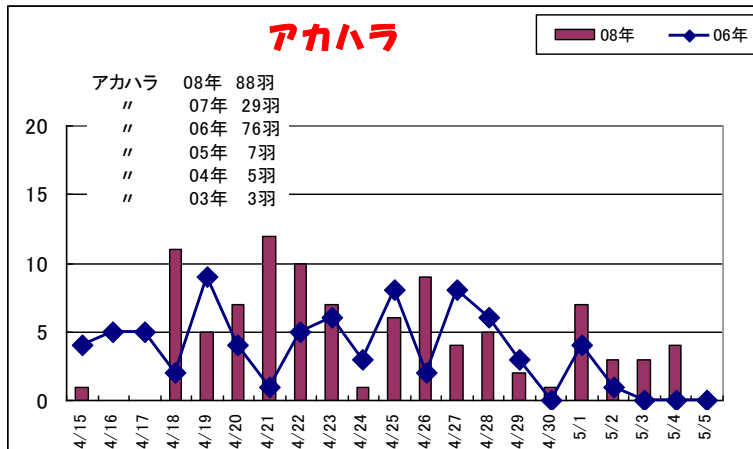
協力：独立行政法人日本万国博覧会機構

①ヒタキの仲間

1. 08年ヒタキの仲間の概要

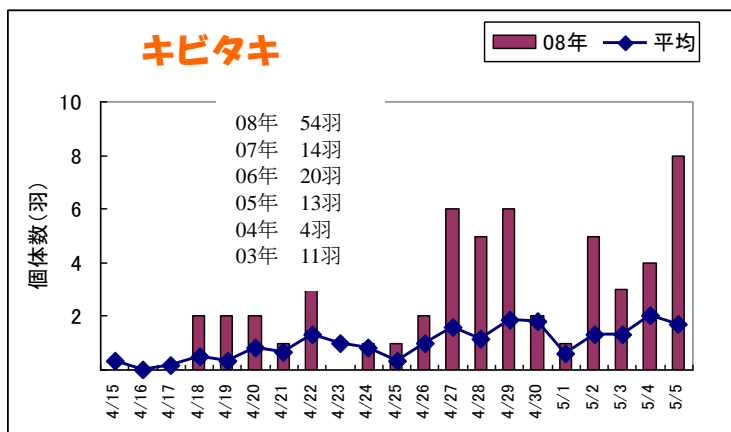
- ・08年の種数は12種と過去最高となった。
- ・個体数も多くアカハラ 98羽、キビタキ 54羽が過去最高、またオオルリも31羽と一昨年に次ぐ多さ、センダイムシクイ 25羽も昨年より減少したものの、この6年間で2番目の記録となった。
- ・その結果、ヒタキ3科で 234羽確認し、マミチャジナイを282羽確認した06年441羽に続く記録となった。
- ・そして、キビタキがオオルリより個体数が多かったのは6年間で初めて、またアカハラ・マミチャジナイを除く種の個体数134羽も過去最高となった。
- ・コルリ2羽、ノビタキ3羽、クロツグミ5羽、ヤブサメ4羽、オオヨシキリ1羽、エゾムシクイ5羽、コサメビタキ4羽も確認した。

		08年	07年	06年	05年	04年	03年	(08-07)
ツグミ科	コマドリ	0	0	0	0	1	2	0
	コルリ	2	0	0	0	1	0	+2
	ノビタキ	3	2	5	0	0	0	+1
	クロツグミ	5	0	1	0	2	2	+5
	アカハラ	98	29	76	7	5	3	+69
	マミチャジナイ	2	0	282	0	0	0	+2
ウグイス科	ヤブサメ	4	1	0	0	0	2	+3
	オオヨシキリ	1	0	1	0	0	1	+1
	メボソムシクイ	0	0	2	0	1	2	0
	エゾムシクイ	5	7	2	11	4	2	▲2
	センダイムシクイ	25	38	14	25	13	7	▲13
ヒタキ科	キビタキ	54	14	20	13	4	11	+40
	オオルリ	31	24	34	19	9	25	+7
	コサメビタキ	4	6	4	1	1	0	▲2
個体数計		234	121	441	76	41	57	+113
種数		12	8	11	6	10	10	+4
除アカハラ・マミチャジナイ		134	92	83	69	36	54	+42



2. ツグミ科アカハラ

- ・アカハラは06年に76羽と多かったが、良く似たマミチャジナイが282羽(バードウォッチング歴50年の方が、経験したことがないといわれるほどの大記録)の影に隠れてあまり目立たなかった。今年はマミチャジナイが2羽にとどまったこともあり、アカハラの状態が良くわかった。
- ・日別で見ると4/20前後に10羽/日を越える日があり、数は変動しているものの期間中ほぼ毎日確認できた。



3. ヒタキ科キビタキ

・今年の春の渡り鳥で特記すべきは、キビタキが多かったことである。

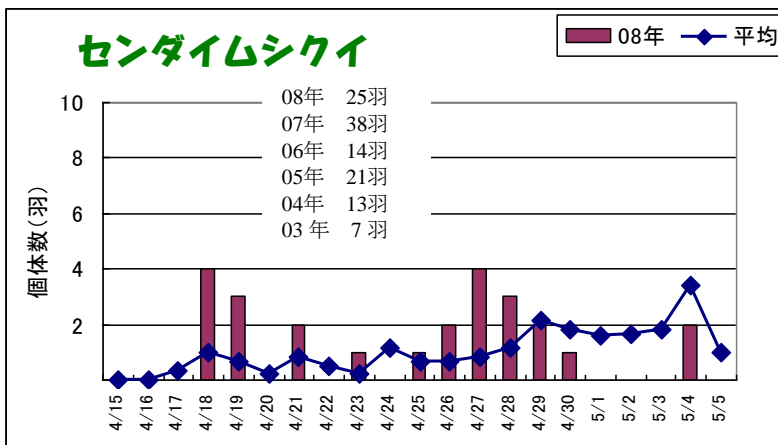
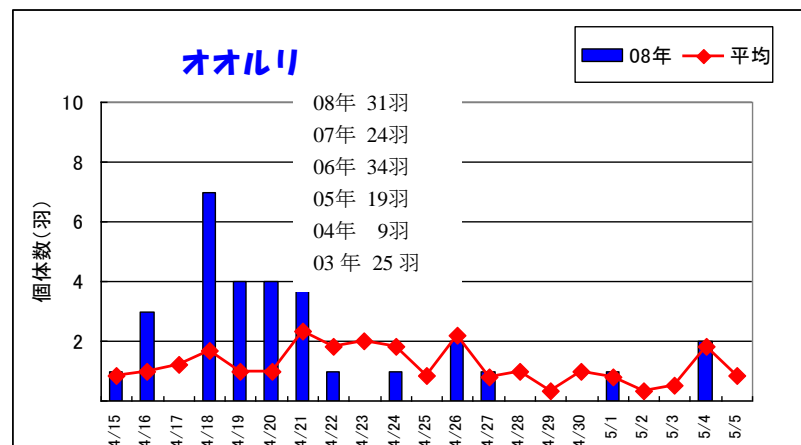
図の中に数字で示したようにこれまでは06年20羽が最大であり、昨年も14羽にとどまっていたが、今年は54羽と昨年比4倍増となった。

・日別推移でも5/5調査最終日に最大8羽確認し、4/27・4/29にも6羽確認するなど、昨年までの確認状況と大きく異なった。

4. ヒタキ科オオルリ

・オオルリは31羽で、06年34羽についで多かった。

・日別推移で見ると、個体数が多いのは前半の4/20前後で、キビタキが4月後半～5月に多かったことと大きく違いが出た。



5. ウグイス科センダイムシクイ

・昨年38羽と最高を記録したが、今年は25羽で昨年にとどまった。

・昨年は特に、5月に入ってから個体数が多くなり、5/4に13羽記録したが、今年は4/18前後、4/27前後の2回ピークがあったものの、最大4羽/日であった。

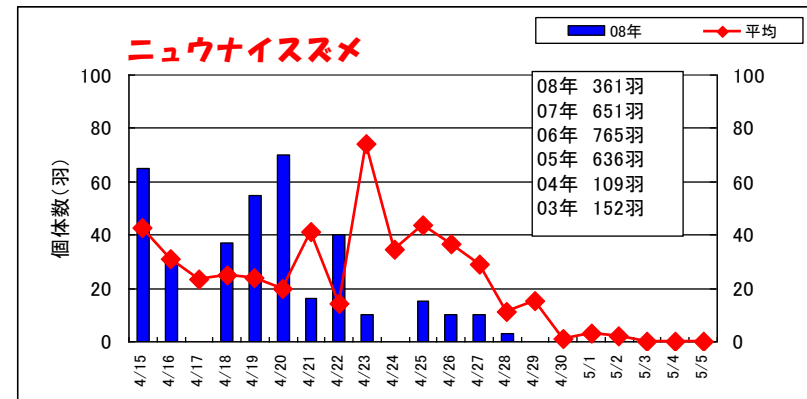
②ヒタキ以外の渡り鳥

1. ハタオリドリ科ニューナイスズメ

- ・今年(08年)は 361 羽を確認したが、06 年・07 年に比し半減し、最大数も 100 羽を超えることはなかった。
- ・4/28 が最終確認日で、幾分早めに渡去したように思われる。

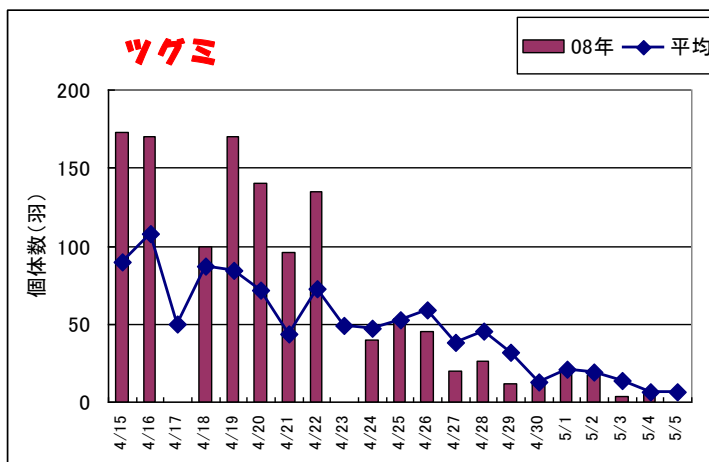
2. そのほかの渡り鳥

春の渡り鳥として初記録は 3 種 (ツツドリ 1 羽、サンショウクイ 2 羽、コムクドリ 1 羽)、2 回目のアマツバメ 3 羽、そして毎年観察できるコチドリは 5 羽確認した。



③冬鳥の状況

1. ツグミ科ツグミ 冬鳥のツグミについて、今年も調査期間中ほぼ毎日カウントした。



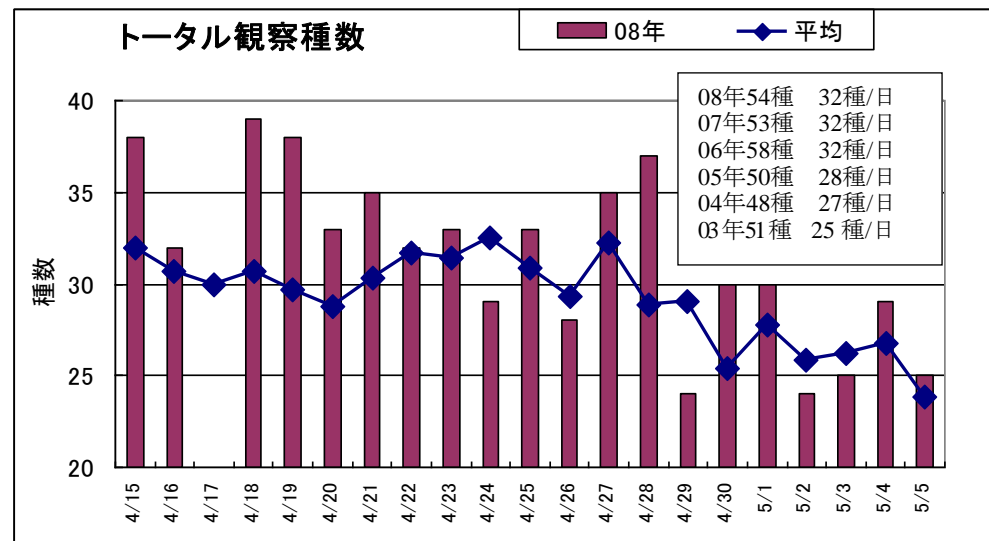
4/20 までの 170 羽ほどのピークが続いた後、渡去により漸減。5/5 は確認できなかった。

2. ツグミ科シロハラ 本年は冬鳥のシロハラについてもカウントした。調査開始直後の 4/15, 16 は、29 羽、27 羽であったが、最終日 5/5 は 1 羽で、漸減傾向はツグミとほぼ同じであった。

3. アトリ科シメ シメについても概略カウント、4/19 最大 50 羽カウントした。徐々に漸減し 5 月にいなくなる状況はツグミ・シロハラと同様であった。

⑤ トータル観察種 (別表)

- ・ 観察種数平均は 32 種、調査期間中に確認した種トータルは 54 種で、昨年と同レベルとなった。
- ・ 観察した全種の一覧表は別表に示した。
- ・ 調査した 20 日間とも確認できた種は昨年と同じ 14 種であった。
- ・ 今年の調査期間に初めて確認した種は、春の渡り鳥でツツドリ・サンショウクイ・コムクドリの 3 種と、冬鳥のキセキレイだった。



⑥ 渡り鳥の確認場所について (別図①～⑤)

1. 渡り鳥の観察した場所を別図 1～5 に示した。
 今年はアカハラ・キビタキが多く、オオルリ・センダイムシクイもまずまずだったこと、それにニューナイスズメを加えた 5 種を中心に、別図からわかった渡り鳥の好む場所を考察してみる。
2. 一番多かったアカハラ (別図③) が好む場所は、a) 自然文化園東南端・月桂樹の丘のアラカシを中心とする常緑樹林、b) 茶畑西側のコナラを中心とする落葉樹林、c) 日本庭園東側のクヌギを中心とする落葉樹林などであった。
 a) は常緑樹林とはいえ林の幅が狭く、中に車道が通っていることもあり、明るい常緑樹林で、昨年もアカハラが最も良く観察できた場所である。アカハラは明るい林で、しかも林床に落ち葉が積もる餌場のある場所を好んでいると推定した。
3. 今年、2 番目に多かったキビタキ (別図①) は、d) 水車小屋～森の足湯の南側に広がる常緑樹林や、e) 渡りの沼～遠見の丘にかけての上津道沿い常緑樹林の中からさえずりが聞こえた。これまで、キビタキの確認数が少ないことと、一般に観察でき

るのが落葉樹林であることから、オオルリと同じように落葉樹林の好む鳥としてきたが、今年はキビタキが多かったことからオオルリよりは暗い常緑樹林を好むことが良くわかった。

4. オオルリ（別図①）が多かった場所は c) 日本庭園東側のクヌギを中心とする落葉樹林、f) 日本庭園茶室北側の外周沿いのクヌギを中心とする落葉樹林、g) 自然文化園・自然学習の森などの落葉樹林であった。昨年までの結果を含め、オオルリが落葉樹林を好むことは間違いない。

尚、別図①はキビタキと一緒に図示したが、両種の生息場所が違うことがはっきりわかる。

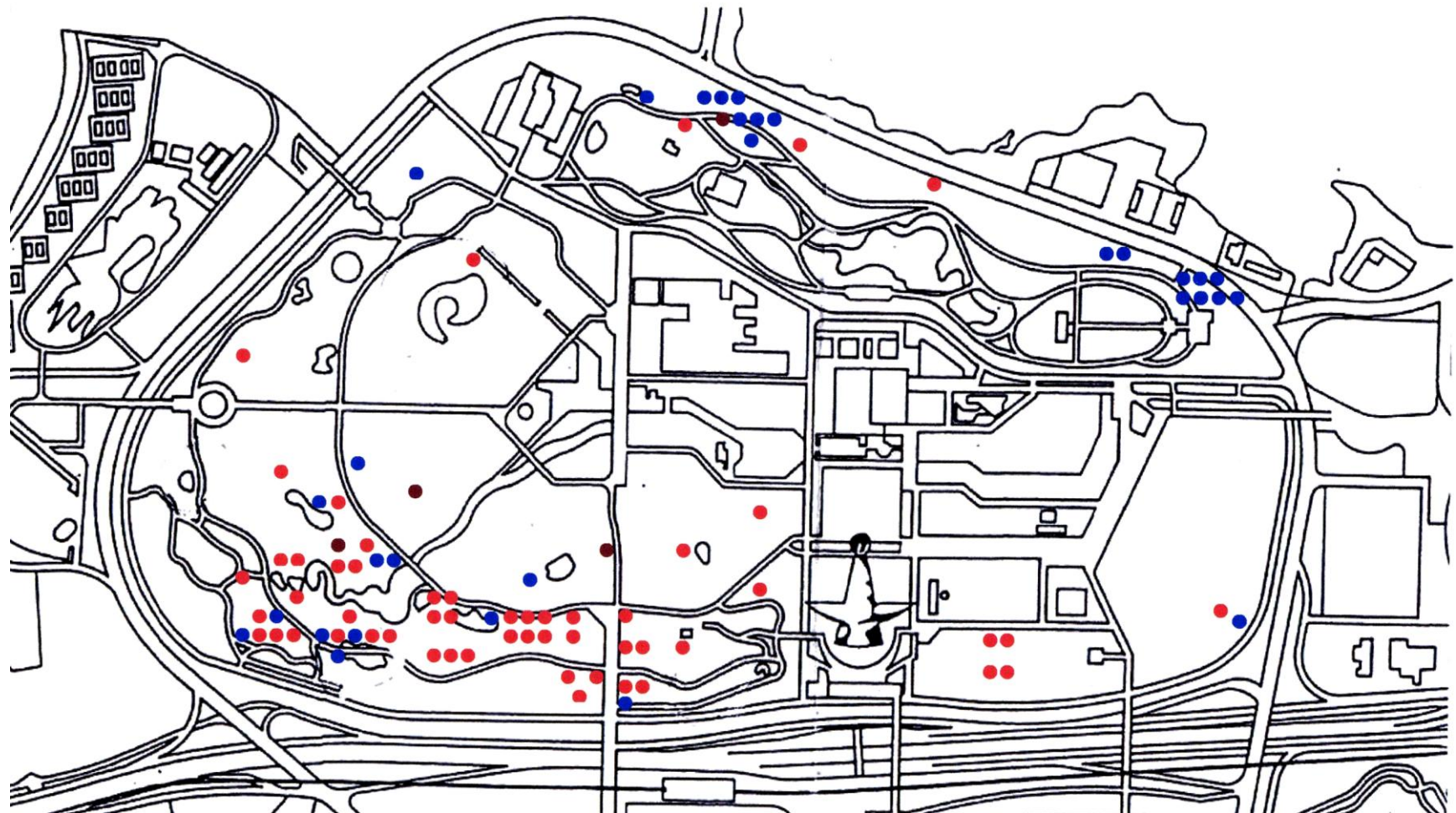
5. センダイムシクイ（別図②）は昨年ほど多くなかったので、図のみでは結論はつけにくいですが、調査時の状況を加味すると明るい落葉樹林が好んでいる。
6. ヒタキ科以外の渡り鳥ではニュウナイスズメ（別図④）が特徴的である。c) f) 日本庭園東から北側に広がるクヌギを中心とする落葉樹林、h) 自然文化園東口～東大路へかけての桜並木及び i) 夢の池南側のケヤキ並木で、昨年までとほぼ同じ状況であった。ニュウナイスズメは植物食中心で、木々の新芽を餌にしていると思われるが、その餌木はソメイヨシノ・クヌギが中心である。
7. 以上、春の渡り鳥と万博公園の植生との関係でまとめると、キビタキ以外の春の渡り鳥は、落葉樹林を休憩場所として万博公園を利用している。一方キビタキについては、落葉樹林よりも常緑樹林をより好んでいるようである。
従って、春の渡り鳥を呼ぶためには以下のように考える。
 - 1) オオルリなどヒタキ科、センダイムシクイなどウグイス科の小鳥に対しては明るい落葉樹林を増やすこと、一方、キビタキは常緑樹林を維持されるのが良いことがわかった。
 - 2) アカハラは、餌場となる落ち葉が積もった林床を持つ明るい林が必要である。落葉樹林では落ち葉が全く無くきれいに清掃されているので、落ち葉を残してもらうのが良いと思う。この環境は冬鳥のツグミ・シロハラにも良い筈である。
8. 大阪城公園に比し渡り鳥が少ないという結論を今年も覆すことはできなかった。この要因として昨年、「大阪城公園の周辺に大きな樹林はないが、万博公園はすぐ近くに箕面山地があり、上空を飛んできた渡り鳥が、万博公園に降りずに北摂山地へ向かうことが一因と推定されるが、確証はない」としたが、それ以上の進展はない。 (以上)

(尚、この調査は吹田野鳥の会会員延べ 58 名の協力により実施したものである)

No.	科名	種名	08年												08年 個体数	08年 観察日数	07年 観察日数	06年 観察日数	05年 観察日数	04年 観察日数	03年 観察日数	07年 比増減	種名										
			4/15	4/16	4/17	4/18	4/19	4/20	4/21	4/22	4/23	4/24	4/25	4/26										4/27	4/28	4/29	4/30	5/1	5/2	5/3	5/4	5/5	
46	ツグミ	クロツグミ	1			1	1		1								1					5	5		1		2	2	+5	クロツグミ			
47	ツグミ	アカハラ	1			11	5	7	12	10	7	1	6	9	4	5	2	1	7	3	3	4	98	18	11	17	6	4	3	+7	アカハラ		
48	ツグミ	シロハラ	29	27		13	15	15	12	10	○	3	5	5	2	7			5	1	1	1	1	152	18	20	21	13	10	14	▲2	シロハラ	
49	ツグミ	マミチャジナイ				1												1					2	2		21				+2	マミチャジナイ		
50	ツグミ	ツグミ	173	170		100	170	140	96	135	○	40	53	45	20	26	12	12	21	17	4	6	1240	19	20	21	17	18	20	▲1	ツグミ		
51	ウグイス	ヤブサメ				1	1			2													4	3		1			2	+2	ヤブサメ		
52	ウグイス	ウグイス	○	○					○	○					○	○			○			○		9	6	6	7	17	11	+3	ウグイス		
53	ウグイス	オオヨシキリ												1									1	1		1			1	+1	オオヨシキリ		
54	ウグイス	メボソムシクイ																					5	5		2		1	2		メボソムシクイ		
55	ウグイス	エゾムシクイ																					5	5	4	1	7	2	2	+1	エゾムシクイ		
56	ウグイス	センダイムシクイ				4	3		2		1		1	2	4	3	2	1					25	11	9	7	10	8	7	+2	センダイムシクイ		
57	ヒタキ	キビタキ				2	2	2	1	3			1	1	2	6	5	6	2	1	5	3	4	8	54	17	9	13	9	4	9	+8	キビタキ
58	ヒタキ	オオルリ	1	3		7	4	4	4	1			1		2	1						1	31	12	10	18	9	6	8	+2	オオルリ		
59	ヒタキ	コサメビタキ					1		1			1			1								4	4	4	6	3	1	1	▲2	コサメビタキ		
60	エナガ	エナガ	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		18	18	16	14	12	13		エナガ		
61	シジュウカラ	ヤマガラ	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		17	17	19	18	13	10	10	▲2	ヤマガラ	
62	シジュウカラ	シジュウカラ	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		20	20	20	21	20	18	20		シジュウカラ	
63	メジロ	メジロ	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		20	20	20	21	20	17	20		メジロ	
64	ホオジロ	ホオジロ																										2				ホオジロ	
65	ホオジロ	ノジコ																													▲1	ノジコ	
66	ホオジロ	アオジ	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		16	18	13	15	14	17	▲2	アオジ		
67	ホオジロ	クロジ																										2	2			クロジ	
68	アトリ	アトリ	30	○		○	○						4			1							35	6	14	1	4	12	3	▲8	アトリ		
69	アトリ	カワラヒワ	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		20	20	21	20	18	19			カワラヒワ	
70	アトリ	マヒワ																								4			7	▲4	マヒワ		
71	アトリ	イカル	○	32		30	30	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	92	16	20	14	17	18	13	▲4	イカル		
72	アトリ	シメ	31	27		36	50	○	15	25	○	○	20	15	12	3		1	2		6	3	246	17	9	17	6	11	10	+8	シメ		
73	ハタオリドリ	ニューナイスズメ	65	30		37	55	70	16	40	10		15	10	10	3							361	12	13	14	12	8	5	▲1	ニューナイスズメ		
74	ハタオリドリ	スズメ	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		20	20	21	20	18	19			スズメ	
75	ムクドリ	コムクドリ											1										1	1							+1	コムクドリ	
76	ムクドリ	ムクドリ	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		20	18	21	20	18	20	+2	ムクドリ		
77	カラス	カケス																								2		5		▲2	カケス		
78	カラス	ハシボソガラス	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		20	20	21	20	18	20			ハシボソガラス	
79	カラス	ハシブトガラス	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		20	20	21	20	18	20			ハシブトガラス	
計			08年	38	32	0	39	38	33	35	32	33	29	33	28	35	37	24	30	30	24	25	29	25	629	636	663	559	485	507	▲7	08年	
計			07年	33	37	33	34	28	28	35	34	32	34	27	33	34	31	29	29	中止	28	34	31	32	636							07年	
計			06年	36	37	39	31	34	29	29	32	36	34	29	27	36	27	36	27	30	33	26	29	26	663							06年	
計			05年	30	25	27	27	27	中止	33	31	26	35	35	32	31	29	30	22	25	21	22	26	25	559							05年	
計			04年	30	27	26	26	25	32	28	32	中止	32	29	23	中止	25	33	19	29	24	26	中止	19	485							04年	
計			03年	25	26	25	27	26	22	22	29	29	31	32	33	25	24	22	中止	25	25	24	19	16	507							03年	
													観察種数	54	53	58	50	48	51														
													観察日数	20	20	21	20	18	20														
													平均観察種数/日	31.5	31.8	31.6	28.0	26.9	25.4														

別図 08年春の渡り鳥① ヒタキ科

● オオルリ 31羽 ● キビタキ 54羽 ● コサメビタキ 4羽



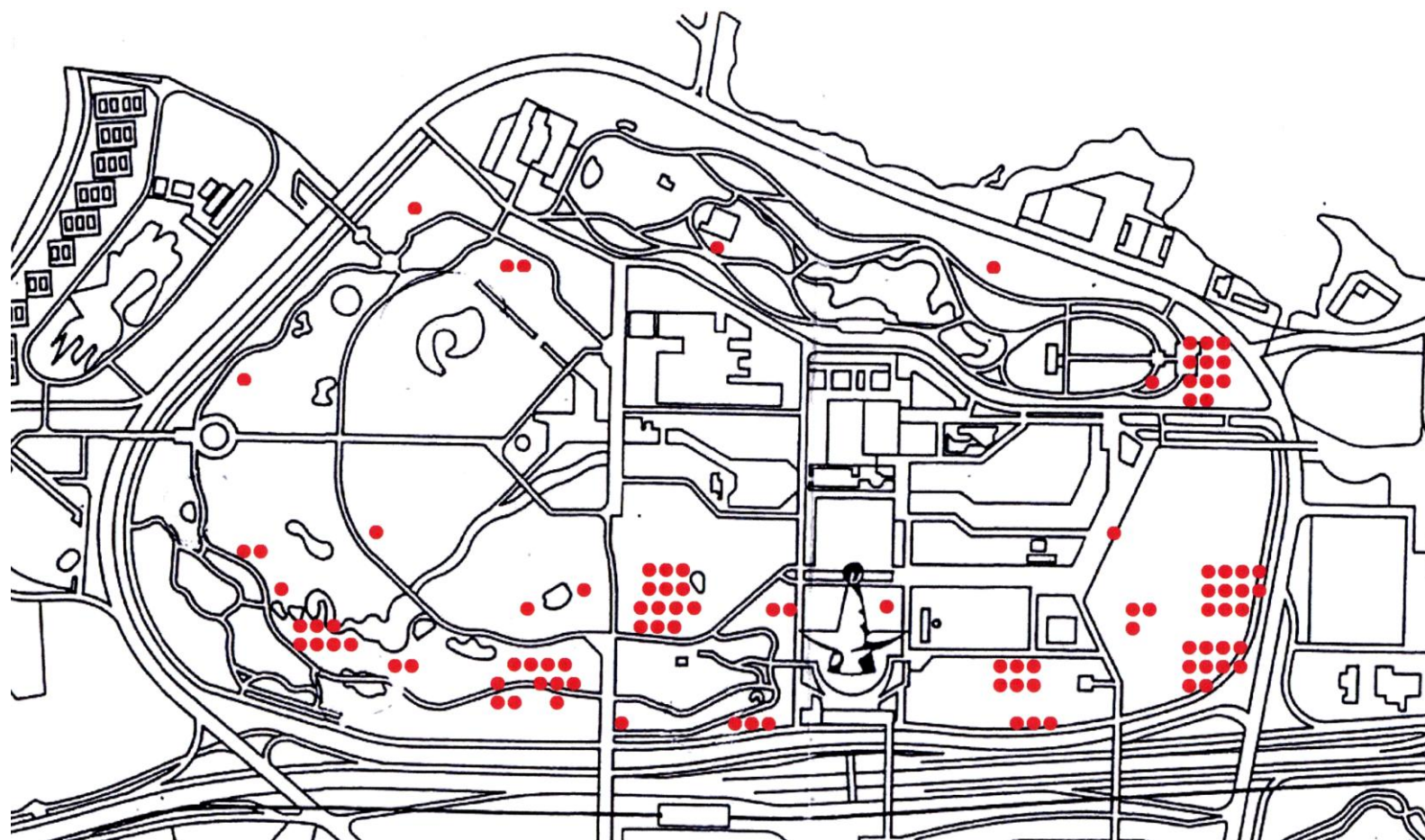
08年春の渡り鳥② ウグイス科

●センダイムシクイ 25羽 ●エゾムシクイ 5羽 ●ヤブサメ 4羽 ●オオヨシキリ 1羽



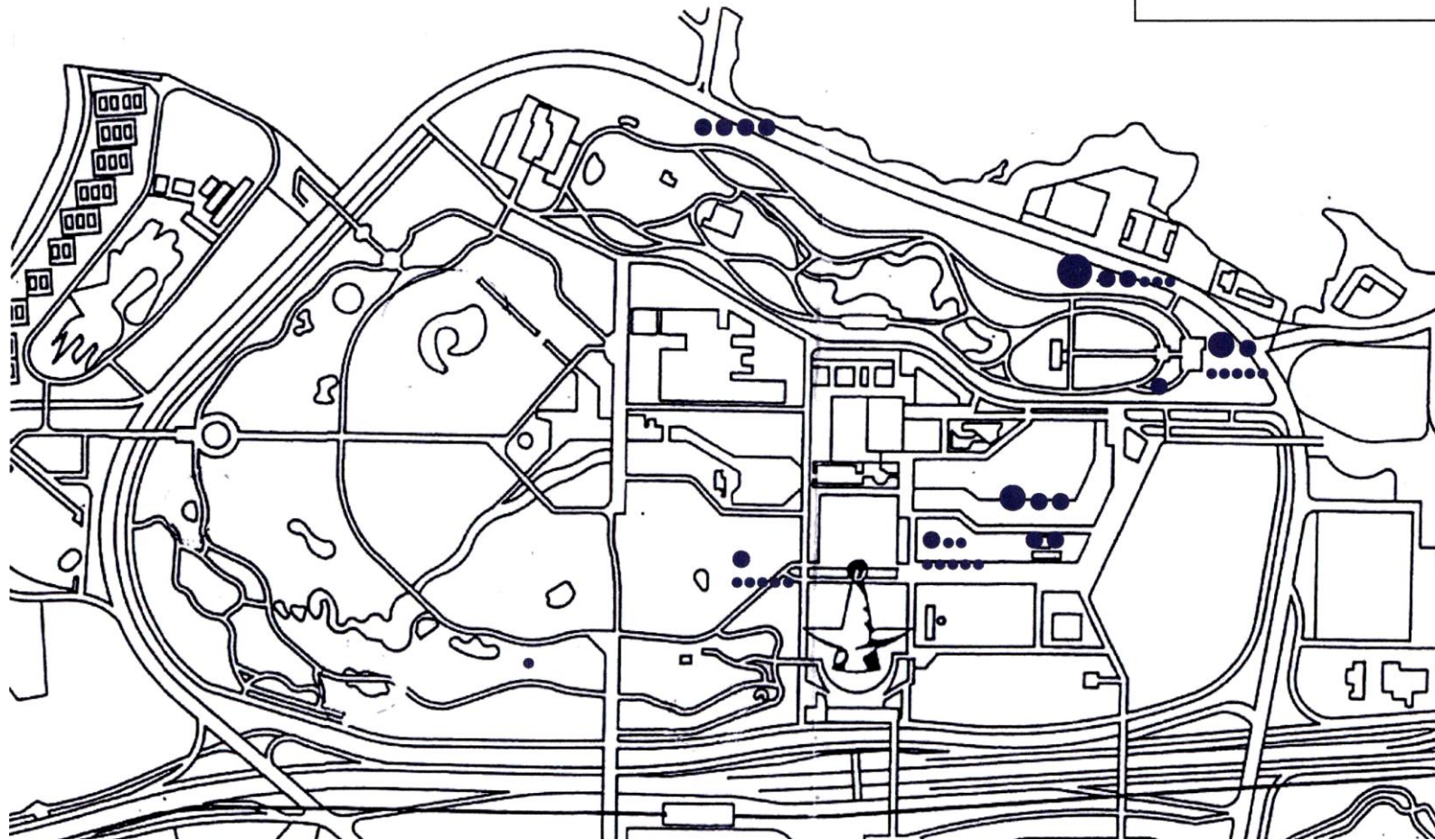
08年春の渡り鳥③

アカハラ 98羽



08年春の渡り鳥④

ニューナイスズメ 361羽



08年春の渡り鳥⑤ その他

●クロツグミ 5羽

●ノビタキ 3羽

●コルリ 2羽

●マミチャジナイ 2羽

●サンショウクイ 2羽

●コチドリ 5羽

